

## 福祉の仕事の魅力向上・発信 —世田谷区福祉人材育成・研修センターの取組みから—

社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団  
世田谷区福祉人材育成・研修センター  
富樫 恵

(人材確保 福祉の理解 魅力発信)

### 1. 目的

世田谷区福祉人材育成・研修センター（以下、研修センターという）のミッションである福祉人材確保・育成・定着支援を推進する基礎資料とするために、世田谷区福祉事業所実態調査を実施し、その調査結果等を踏まえ「福祉の仕事の魅力向上・発信」に関する様々な取組みを行っている。取組み状況について報告するとともに、世田谷区内の福祉人材の確保・育成・定着支援を着実に推し進めるための課題や今後の方向性について考察する。

### 2. 取組み内容と結果

#### (1) 令和元年度

##### ①世田谷区内福祉事業所の実態調査を実施

調査概要：対象/区内の高齢者・障害者・子どもの3分野、約1600事業所

有効回答数 831件 回収率 52.3%

調査結果：区内従事者数 13,569人アンケート回答（23,000人、回答率より推計）

高齢者・障害者分野では従事者「10人未満」の事業所の割合が高い

（高齢者分野 51.4%、障害者分野 38.9%）

職員の過不足については、62.9%が「不足」を感じ、人材確保の課題として、「求められる人材や必要な資格保有者の応募が少ない」と 56.9%が回答

##### ②調査・研究テーマ「福祉の仕事の魅力向上・発信」にむけた検討

「世田谷区福祉事業所実態調査」の結果や世田谷区の現状、他自治体等の先駆的な取組みに関する情報、研修センター運営委員会の意見などを踏まえ、福祉人材の確保・育成・定着支援を総合的に展開し、福祉の仕事の魅力向上・発信、「福祉職員が誇りや意欲をもって働き、誰もが安心して住み続けられる地域づくり」に取組む。

#### (2) 令和2年度

##### ①「福祉の仕事の魅力向上・発信」に向けた取組みを推進するための事業所アンケート調査

調査概要：対象/高齢・障害分野 80事業所

有効回答数 55件 回収率 68.8%

アンケート回答：「将来を担う子ども世代への理解促進」（61.8%）、「区民への理解促進」

（45.5%）、「高校生介護施設体験」「子育て終了、定年退職の方への働き

かけ」「福祉のしごと相談・面接会、出前講座」（各々30.9%）であった。

##### ②「福祉の仕事の魅力向上・発信」に向けた主な取組み

### ・小・中・高校生夏休み介護体験【拡充】

- 日 程：8月1日～24日 7日間14回 参加者数：小学生親子・中・高校生346名
- ・福祉のしごと入門講座・事業所紹介、区内介護施設等紹介、シニアボランティア研修、介護を学ぼう！入門的研修【動画やWebを使った新たな様式の導入】
  - ・研修センターニュース「じんざいくん便り」の発行（6月より隔月発行）【新規】
  - ・広報誌の作成（1月発行予定）【新規】

### 3. 今後の課題と取組み

福祉の仕事は知識・技術・高い倫理観や専門性が必要で、人間の尊厳を支える社会的価値の高い仕事である。福祉の仕事の専門性を高めるキャリアパス研修や専門性向上研修等を実施し、サービスの質を高め、福祉人材の社会的地位の向上を図りたい。それらの取組みを通し、さらに福祉の理解が促進され、福祉人材の確保へつながる流れを構築していく。今後も、福祉人材育成・研修センターは、地域に根差した福祉人材育成の拠点として、関係機関のネットワークを活用し、誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域づくりに取組んでいく。



研修センター職員

~~~~~

＜助言者コメント＞

諫訪 徹（日本大学文理学部社会福祉学科教授）

実態調査を行い基礎資料を得たことは、新しい研修センターの最初の一歩として重要な取り組みだと思います。ICT やロボット技術の取り組みが思った以上に行われているなど、私も大変勉強になりました。この調査結果を活かして、ぜひ、今後の事業展開を考えていきたいと思います。

その際、福祉の職場に共通する特性、例えばヒューマンサービスで、小規模職場であることといった点とともに、分野別の違いにも十分、分析していただきたいなと思いました。例えば、労働市場の構造は分野別に違います。保育は基本的に保育士という国家資格者が中心で養成校も多いし、潜在有資格者も多い。それと国家資格者が少なく、養成校も少ない介護では全然違います。同じ人材不足といつても意味も違うし、それが生じる背景も違う。そのような分野別の分析もしながら、事業企画・展開につなげていただきたいと思います。

子どもたち向けのアプローチが必要だと、事業者のみなさんが共通しておもっていらっしゃることもわかりました。ぜひ事業者のみなさんと協力して、福祉の仕事の魅力を体感できるさまざまな事業を企画していただきたいと思います。

また、コロナ禍のなかで動画やオンラインが身近になりました。今回の福祉区民学会の取り組みもその一つです。これまでには集まれないということがネックでしたが、オンラインは、研修や事業の打合せにはかなり有益です。今回のオンライン学会の取り組みを始め、すでにさまざま着手・検討されていると思いますが、そのようなツールも生かしながら、センターの事業が広がっていくことを期待します。